



# 理工学庁イセンターニュース

No.101 2007.7

## 7月の開館時間

先月の入館者数  
23,533人

2007年7月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

【カレンダーの見方】

- 通常開館  
月～金:8:45～21:30 / 土:8:45～20:00
- 短縮開館  
月～金:8:45～19:00 / 土:8:45～18:00
- 臨時開館 10:00～18:00
- 休館

\* 来月以降の開館予定は次のウェブページでご覧いただけます。

<http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/calendar/calendar2007.html>

\* 塾内各地区メディアセンターの7月の開館日程は次のウェブページでご覧いただけます。

<http://www.lib.keio.ac.jp/schedule/200707.pdf>

## 目次

<b>お知らせ</b> .....	2~4
企画展示第10回 『オイラーとSUDOKU(数独)』	
夜間開室利用申請手続き方法を簡略化	
日曜・祝日 臨時開館	
創想館地階閲覧室の24時間開室	
夏季長期貸出	
塾内図書取寄せサービス一時停止(学部生のみ)	
コピー機増設	
British Libraryからの文献取寄せ料金改定	
<b>電子図書館サービス</b> .....	4
ScienceDirect e-Books(電子ブック)トライアル中	
メールアドレスの入力は正確に	
<b>雑誌の動き</b> .....	5
<b>コラム</b> .....	5~6
新着図書紹介 『サイエンスコミュニケーション:科学を伝える5つの技法』	
著作権メモ 36 引用について(著作権者の許諾が不要な“引用要件”)	

## 企画展示第 10 回 『オイラーと SUDOKU (数独)』

パズル「数独」は、「SUDOKU」という名で世界各国に広まっています。

18 世紀のスイスの数学者レオンハルト・オイラー (Leonhard Euler, 1707-1783) は、科学の分野で様々な業績を残しましたが、この「数独」の基となった「方陣」も彼の研究対象の一つでした。

2007 年はオイラーの生誕 300 年に当たり、地元スイスでも様々なイベントが開催されています。今回は、これを機会に、「数独」の起源ともいわれるオイラーの論文を始め、彼の著作(三田メディアセンター所蔵、準貴重書)を中心に展示をしております。是非ご覧ください。

< 数 独 >

		6						1
	7			6				5
8			1		3	2		
		5		4		8		
	4		7		2			9
		8		1		7		
		1	2		5			3
	6			7				8
2						4		

期 間: 2007 年 6 月 23 日(土) ~ 7 月 21 日(土)

場 所: 理工学メディアセンター創想館 1 階

U R L:

<http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/kikaku/10th-exhibition-top.html>

### 数独のルール

空いているマスに、1 から 9 までの数字のどれかを入れる。

縦 9 列、横 9 列、太線で仕切られている 3×3 のブロックのそれぞれ 9 マスのいずれにも、1 から 9 までの数字が 1 回ずつ入る。

つまり、すべての列とブロックのマスに数字がだぶらないように埋めれば完成。

## 夜間開室利用申請手続き方法を簡略化

平成 19 年 6 月 28 日(木)から、創想館地階閲覧室の夜間開室利用の申請方法が以下のとおり変更になりました。

### (1) 申請受付時間

平日・土曜 8:45 ~ 閉館 5 分前

### (2) 申請方法

貸出・返却カウンターに学生証を出してください。申請書の記入が不要になりました。

但し、理工学部以外の学生で、進級後初めて利用される場合は、申請書の記入が必要です。

申請書は、貸出・返却カウンターに用意しています。

## 日曜・祝日 臨時開館

春学期末試験に伴い臨時開館を行います。開館時間とサービス内容が通常と異なりますので、ご注意ください。

臨時開館日：7月15(日)、7月16日(月・祝日)、7月22日(日)

開館時間：10:00 ~ 18:00

サービス内容：館内閲覧・貸出・返却・複写は通常どおり。

文献複写取寄せの受付はいたしますが、処理は翌通常開館日になります。

その他のレファレンスサービスは休止します。

創想館地階閲覧室 24 時間開室も実施します。

## 創想館地階閲覧室の 24 時間開室

創想館地階閲覧室を春学期末試験期間中、以下のとおり翌朝7時30分まで開室します。

マナーを遵守の上、勉強や研究にご利用ください。

毎回希望者多数のため、今回から理工学部在籍者のみの利用に限らせていただきます。ご了承ください。

期 間：7月9日(月) ~ 25日(水)の毎日

開室時間：閉館時刻(平日 21:30, 土曜 20:00, 日曜・祝日 18:00) ~ 翌朝 7:30

申請受付時間：平日・土曜 8:45 ~ 閉館5分前 / 日曜・祝日 10:30 ~ 閉館5分前

備考 (1) 利用は、理工学部在籍者に限られます。

(2) 利用申請および夜間残留届の記入・提出が必要です。(手続先：貸出・返却カウンター)

(3) 申請した本人が、当日のみ利用できます。

(4) 開室中は警備員が巡回します。

(5) 退出する際に申請時に受け取ったICカードは、出口の返却ボックスに返してください。

利用上の注意：利用規則を守り、騒音など他の利用者や近隣の方々の迷惑にならないように、

節度ある利用をお願いいたします。

## 夏季長期貸出

夏季長期貸出を下記のとおり実施します。

受付期間：通常 1 ヶ月貸出の資料(主に洋書)：7月4日(水) ~ 9月3日(月)

通常 2 週間貸出の資料(主に和書)：7月18日(水) ~ 9月19日(水)

最終返却期限：10月3日(水)

- \* 貸出冊数は通常どおり(学部生 7 冊、大学院生 10 冊、教職員 30 冊)です。
- \* 貸出期間の更新はできません。期限までに必ずお返しく下さい。
- \* オーバーナイト扱いの資料は、長期貸出の対象にはなりません。
- \* 他地区からの借用資料は所蔵地区の貸出規則に従います。

## 塾内図書取寄せサービス一時停止（学部生のみ）

学期末試験に伴い、三田・日吉・湘南藤沢各メディアセンター及び看護医療学図書室からの現物借用サービスを一時停止します。

停止期間：7月11日（水）～ 7月23日（月）

ただし、信濃町メディアセンター、山中資料センター、白楽サテライトライブラリーからの取寄せは、実施します。なお、教職員・大学院生は、この期間もサービスの停止はありません。

## コピー機増設

試験期間中のコピー利用増大に対応し、コピー機を2台、館内に臨時増設しました。

設置期間：6月18日（月）～ 7月31日（月）

設置場所：本館1階複写室と本館2階エレベーター前ロビー

## British Library からの文献取寄せ料金改定

イギリスの British Library（BL）からの文献取寄せ料金が8月1日より下記のとおり改定されます。この料金の他に、従来どおりお申込み1件につき手数料が200円加算されます。詳細はレファレンスカウンターにてお尋ねください。

複写取寄せ：（旧）1,700円 （新）2,045円 / 件

現物貸出：（旧）2,945円 （新）3,440円 / 件

## 電子図書館サービス

電子図書館サービスについてのご質問等は、当センターレファレンス担当

（E-mail: riko-mcref@adst.keio.ac.jp, 内線 40307）までお問い合わせください。

## ScienceDirect e-Books（電子ブック）トライアル中

商業出版社エルゼビアが刊行した単行本のうち、Science & Technology 部門のほぼすべての学術書籍が電子化され、ScienceDirect 上での販売が予定されており、現在そのなかから約500タイトルがお試しで利用できるようになっています。トライアル期間：7月31日まで。

当センターホームページ（<http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/>）のトップメニュー「電子ブック」から、または「データベース」のトライアルデータベースから選ぶか、直接

[http://japan.elsevier.com/sdsupport/ebooks\\_trial.html](http://japan.elsevier.com/sdsupport/ebooks_trial.html) にアクセスしてください。

正式導入のご希望などは、当センターレファレンス担当（連絡先は上記）までお願いいたします。

## メールアドレスの入力は正確に

文献複写取寄せや図書予約・取寄せなどのオンラインリクエストをお申し込みの際に、連絡先としてメールアドレスを入力していただいておりますが、最近、入力ミスあるいは不使用アドレスの入力が目立ちます。皆さんへの連絡を迅速に行うためにも有効なメールアドレスを正確に入力していただきますようお願いいたします。

## 雑誌の動き

### 【誌名変更】

#### 洋雑誌

- ・ Advances in the physics of particles and nuclei  
(前誌：Advances in nuclear physics) vol.28(2007)-

#### 和雑誌

- ・ 研究報告 / 東京都立産業技術研究センター  
(前誌：研究報告 = Bulletin of Tokyo Metropolitan Industrial Technology Research Institute / 東京都立産業技術研究所) 1号(2007) -
- ・ 九州東海大学工学部紀要 (CD-ROM)= Bulletin of School of Engineering Kyushu Tokai University  
(前誌：九州東海大学紀要. 工学部) 31号(2004) -
- ・ 九州東海大学応用情報学部紀要 = Bulletin of School of Information Science, Kyushu Tokai University  
(前誌：九州東海大学紀要. 工学部) 5号(2004) -
- ・ 名城大学理工学部研究報告 (CD-ROM) = Research reports of the Faculty of Science and Technology, Meijo University, Nagoya, Japan  
(前誌：Reports of the Faculty of Science and Technology, Meijo University) 47号(2007) -

## コラム

### 新着図書紹介 『サイエンスコミュニケーション：科学を伝える5つの技法』

千葉和義・仲矢史雄・真島秀行編著 日本評論社刊 2007年

「サイエンス・コミュニケーション」という言葉をご存知でしょうか。

科学技術は日々目ざましい進歩を続けていますが、その一方で人々の科学技術離れという現象があることも見逃せません。これは科学技術が高度化・専門化されたために理解が難しくなり、その結果として人々の無関心が生まれていると考えられます。

人々が科学技術に対して、判断し、意見を持つためには、まず理解することが必要です。それには、科学技術を扱う専門家が自分の専門分野についての知識を他の人々に伝えていくことが大切となります。しかしながら、科学技術を伝え広める役目を果たすのは学者や研究者だけではありません。科学技術を学んでいる人、興味を持つ人すべてが対象となります。社会と科学技術の双方向のコミュニケーション、これが本書でいう「サイエンス・コミュニケーション」です。

コミュニケーションには伝える力の技術向上が不可欠ですが、本書ではそのための「5つの技法」について具体例を挙げて紹介しています。「プレゼンテーションスキル」、「ライティングスキル」、教育のための「科学的探求能力育成スキル」、「教材開発スキル」、予算を得るための「外部資金導入スキル」と多角的に示されており、「サイエンス・コミュニケーション」を担う多くの人にとって、この1冊からたくさんのヒントを得ることができるでしょう。

(請求記号：407@C3@1 配架場所：本館 2F 一般図書)

## 著作権メモ 36 引用について (著作権者の許諾が不要な“引用要件”)

「引用」とは、自説を補強するために自分の論文の中に他人の文章(またはその他の著作物)を掲載することをいいます。引用するには以下のような引用要件があり、これを満たす限り著作権者の許諾を得なくともよいとされています(著作権法第48条、第32条)。

- ・引用元が公表された著作物であること(第48条)
- ・公正な慣行に合致すること(第48条)
- ・報道、批評、研究その他の引用の目的上正当な範囲内で行われること(第48条)
- ・出所を明示すること(第32条)

また、上記の「公正な慣行」「正当な範囲内」については、判例により以下のような判断基準が示されています。

- ・質的にも量的にも、引用する側の本文が「主」、引用部分が「従」という関係にあること
- ・引用部分を括弧でくくるなど、本文と引用部分が明らかに区別できること
- ・引用する必然性があること

著作権者の許諾をなしに引用を行う際は、常に上記の引用要件を満たすようご注意ください。次回のこのコラムでは、学術論文執筆時の具体的疑問を例に、引用の詳細をご紹介します。



発行 : 慶應義塾大学理工学メディアセンター

E-mail : [riko-mcinfo2@adst.keio.ac.jp](mailto:riko-mcinfo2@adst.keio.ac.jp)

Home Page : <http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/>

本誌の電子版のご利用はこちらから <http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/mcnews.html>